

エレクトロニクスで社会に貢献する



## 39 石になった狩人 (モンゴルの昔ばなし)

ある日、心優しい狩人は鳥にさらわれた小さな白へびを助けました。

次の日、白へびが美しい姫の姿で現われ、いいました。

「私は竜王の娘。父があなたに御礼をしたいといっています。父が最も大切にしている動物の言葉がわかる宝の珠をいただきなさい。でも、珠のことは人に話さないで。話すとあなたは石になってしまいますよ。」

宝の珠のおかげで、狩人は狩りがとても楽になりました。

数年後のある日、「明日の大洪水で山が崩れ、みんな流されるぞ。」という鳥たちの話を聞きました。

狩人は、村人にこのことを一生懸命伝えました。しかし、誰も信じません。

石になることを覚悟した狩人は、珠のことを打ち明けはじめました。

狩人は、しだいに固くなり、とうとう動かなくなりました。

狩人の石は、助かった村人たちにいつまでも大切にされました。



白蛇の娘が、村人を救う力を授けてくれました。

## 世界昔ばなしを科学する

このシリーズは、半導体技術で世界に貢献するロームがお届けしています。  
おなじみの世界の昔ばなしの中から毎回テーマを一つとりあげ、そこに隠れて  
いるいろいろな不思議を科学の視点で見つめます。さて、今回のおはなしは…

おしらせ

バックナンバーは、  
ロームの文化支援のサイトで  
ご覧いただけます。  
[www.rohm.co.jp](http://www.rohm.co.jp)へアクセス

### ●動物は近く、神は遠い存在でした。

「石になった狩人」のように、動物の言葉が分かるようになるというモチーフは広くみられ、特にヨーロッパの昔ばなしに多いのだとか。これは狩猟の文化と関わっているようです。もちろん日本でも有名な話がありますね。動物の話を聞いて裕福になった「きき耳ズキン」などがそれ。かつて動物は、今よりもずっと身近な存在でした。一方、「人が石に変えられてしまう話」はそれほど類話は多くありませんが、グリムの「忠実なヨハネス」などは、同じように主人公が真実を告げて石に変えられてしまいます。魔法の力を与えられ、その真実を告げると罰を受けるパターンは昔ばなしに多くありますが、何を意味するのでしょうか。これは、神の秘密を明かすこと、つまり人間が「神の領域」へ踏み込むことに対する警告だと考えられています。

### ●世界共通で神聖？白い動物。

昔ばなしでは、白い動物が神の使いとして度々登場します。信仰の対象となり、日本にも白蛇を祀った寺社が多くあります。白い虎はインドでは神の使いとされ、タイなどでは、白象が現れると国の繁栄を意味するそうです。白い動物 자체が珍しいため、白色は、世界各国で神聖な色として認識されているとともに、神格化されるようです。野生では白い動物が生まれる可能性は10万分の1以下ほどであり、生き残るのはもっと少なくなります。なぜなら白は目立ちやすく、例え

ば白蛇などは天敵のタカに見つかる可能性も高いからです。白い動物でなくとも、昔の人々は動物の能力に注目し畏敬してきました。現代でも地震や火山、津波をいち早く察知する動物たちの例は数多く報告されており、現代の科学に活かす研究も進められています。

### ●動物の天気予報は、あてになるか？

そんな動物たちのセンサー能力を知恵として伝えてきたのが、天気に関する事わざです。例えば、「雨蛙が鳴くと雨」。3~5時間後の雨を予測し、70%位の確率で当たるようです。雨蛙などの両生類の皮膚は常に湿っていなければならず、湿気の変化に敏感。雨が降る前には湿度が高くなることが多く、雨蛙はそれに反応して鳴くのです。あるいは、「猫が顔を洗うと雨」。猫のヒゲも敏感で、湿度が高くなりヒゲが湿ると猫はそれを気にして顔を洗うような仕草をします。しかしこれは、確率30%ぐらいであてにはならないのだとか。「トンビが高く飛ぶと大風が吹く」。トンビやタカなどは、風に乗って飛びます。高い所で飛んでいるときは上空で強風が吹いているので、地上でも強い風が吹く前兆と考えられるのです。こうしてみていくと、根拠があるものもあり、調べてみるとおもしろそう。昔ばなしのような「動物の言葉がわかる珠」があれば、もっといろんなことが分かるでしょうね。

昔ばなし監修／昔ばなし研究所所長 小澤俊夫  
取材協力／日本動物科学研究所 今泉忠明